

S姉から今年も韓国低山ハイキングのお誘いがきた。今回は女性ばかり5名で老婆の休日倶楽部の山旅となる。

目的の小白山は朝鮮三国時代には高句麗・百濟・新羅の国境だったところで、1987年に国立公園になった。去年の太白山は標高1567mで、小白山より128m高いが道立公園で、小白山のほうは国立公園だ。山麓の豊基は、以前大屯山へ行ったときに通った錦山に次いで朝鮮人参の産地として有名だ。

■5月30(月) 成田12:45→仁川15:15(スカイホテル泊)

何度も利用している仁川のスカイホテルは、仁川空港と宿は無料送迎してくれ、スーパーにも近い便利な宿だ。ここには帰国前日も泊まることになっている。

空港着後、まずは両替。両替レートは1万円＝100,000₩(ウォン)。事前にネットから10%増しの銀行サービス券を印刷して持参の賢いメンバーMさんのお陰で、1万円→101,000₩になった。

それから、日本語ガイドのいるカウンターで豊基の宿を紹介してもらおう。宿の料金は、1部屋に



5人全員が泊まり1日分10万₩だ。2日分でも1人3,500円。みんな年金暮らしの〈老婆の休日〉としても格安!

宿の予約を済ませて、迎いの車でスカイHへ17:00着。2人ずつ3部屋で、部屋にはダブルベッドとシングルが各1、寝相の悪い私はTさんからダブルベッドを譲ってもらえた。

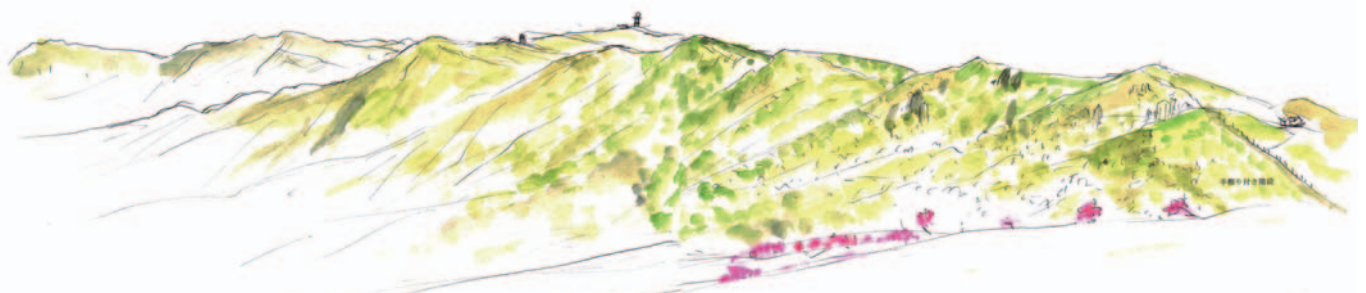
17:30、Aさんの知人二人：金さんと李さんの車に同乗、仁

川市内の美味しい豚の焼肉店でカルビと冷麺を御馳走になる。お二人ともかなり日本語を話すので、賑やかな会話が続いた。21時Hへ戻る。そこで、金さんに頼んで、6月3日帰国日の統一展望台へのジャンボタクシーを予約してもらった。

■5月31(火) 仁川9:20→東ソウルバスターミナル11:00～12:05→豊基14:30着(豊基温泉モーター泊)

空港からのリムジンバス東ソウルBT行きが16,000₩もする。乗り換えても地下鉄なら半額、バスは楽チンだけどその分高いということだ。

12:05発豊基行きのバス(13,200₩)に乗る。快適なシートで寛いで眠っていた14:30過ぎ、「ここで降りる」と運転手が言う。降りたところは街外れの炎天下の街道だった。空港案内嬢の



小白山、毘盧峰から行く稜線(筆者スケッチ)



小白山山頂

話では「バス停から宿まで徒歩5分」というに、これはなんじゃ！折よくタクシーがきたと喜んだら、同じバスを下車した人の予約車だった。そのタクシー運転手に車の手配をお願いできて、宿へ無事に到着。

■6月1日(水) 小白山1,439m登山(豊基温泉モーター泊)

小白山は南面から登って、稜線を縦走して西方へ下山するコースを歩く予定。S姉は7年前の4月に小白山に西方から往復登山したそうだ。

前日予約したタクシー 2台：4万~~¥~~、20分くらいでピロサ登山口へ6：35着。

林の中のなだらかな登山道を進む。谷沿いから尾根に上がると傾斜が急になってくる。休憩をとりながらゆっくりと上がっていく。最後の休み場でいっしょになった韓国人男性グループからジュ



山頂直下縦走路のツツジ群落



オオバヤマレンゲ

ースをご馳走になる。私が昨年5月太白山、9月鬱稜島聖人峰のスケッチを見せると彼はスマホの聖人峰の写真を見せてくれた。

9：45小白山の頂上・毘盧峰^{ピロボン}に到着、草原状のたおやかな緑の尾根を点々とまたは連なってピンクのツツジ(チョルチュク)が彩っている。ツツジ祭りは昨日までだが、まだまだ咲いていた。遠くの方は少しかすみがかかっているが、これから行く稜線の先、遙か天文台まで指呼できる。

昼も食べずに、私は早速スケッチにとりかかると、さっきの男性が若い女性をひっぱってきて「スケッチブックを見せて」という。絵は万国共通の言葉なのだ。

10：30縦走開始。意外にも去年、太白山で見たのと同じオオバヤマレンゲの清楚な白い大輪がたくさん見られた。チョルチュクの赤とコンビで、紅白花ハイキング=贅沢な展望コースだ。苦手な階段下りもある長い縦走路で、しだいに足が重くなってきたが、事故らないようにゆっくりと花を愛でつつ下る。

13：30に蓮花峰1,383m^{ヨンファンボッ ボ}喜方瀑布着、^{フェバン}喜方^サ寺方面へ下り、お寺を拝観後、^{ヨンファンボッ ボ}喜方瀑布を眺める。15:50駐車場に待機していたタクシー(1台15,000~~¥~~)に乗り、宿へ16:15に戻った。みっちり歩いたので、おおいに疲れた。

股関節の具合が悪く登山を諦めたKさんは、一人で観光地巡りをしてきたという。 (続く)